若草句会

塩川　雄三先生　選

十月　兼題　「鰯雲」「干柿」「赤い羽根」「松茸」

選者句

干柿の居心地のよき軒の下

入選句

大空に嵐のごとき鰯雲　野口　喜代治

観覧車かすかな動き鰯雲　住田　豊子

干柿の日々痩せゆくを見守れり　関　純子

何だまだそこに居たのか棄鶏頭　東間　キミヨ

吊し柿夕日の色に染まるなり　中野　洋子

十一月　兼題　「招野」「セーター」「粕汁」「山茶花」

選者句

粕汁に亡き母のこと思ひ出す

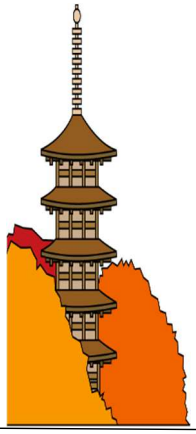
入選句

山茶花のこぼれし上にまたこぼれ　平井　朝子

あき つ飛ぶ空の大きな宇陀の里　西村　公子

通りすぐ電車の赤や大枯野　三浦　まゆみ

石垣の粗き隙間や草紅葉　小田　良子



川柳

文章表現を楽しむ科　四句

何食べる作る気もなく聞いてみる　水野　裕子

カメラより腕を褒めろと拗ねる夫　谷　たか子

定年後ゴロ寝を見られ粗大ゴミ　濱本　啓二

花供え母に会いたいしゃべりたい　福島　慶子

高1健福　松上　初美　二句

恋に落ち　溺れかけたよ　夢の中

これからよ　後期高齢楽しもう

短歌

N高1美術　井上　恵子　二首

秋雨がおとずれ来ればきぬずれの　音さやけきし冬忍びくる

空高く思いを刻む悲しみに　風化されんと土に変わらん

大阪のいぶき 116 号」掲載